



フィリピン名物トライ・スクルの長い列。

二輪（バイ・スクール）にサイドカーを取り付ければ三輪となるのでトライ・スクールである。

これが身近なフィリピン人の足となる。

客は、サイドカーの中とバイク後部の座席に座るが、その作りにより定員は異なり4名から6名。

そこそこの人数になるまで動かないので、同乗者を、しばし待たなければならない。

でも、定員分の運賃（50ペソ程度/約100円）を提示すれば、即スタートとなる。（持つべきはいつも金）

地域・地域限定での営業許可であり、そこをまたがる長距離運行はない。

環境対策のイメージアップを狙い、政府が進める電動トライ・スクルの記事が新聞にあった。

近隣のアジア諸国には、とっくに地下鉄が走っているところもあるだけに、何か寂しい。